第11回大学教育研究フォーラム
大会企画フォーラム
『大学教育評価―評価する側の論理―』

開　会　の　辞

林　　哲　介（京都大学高等教育研究開発推進センター教授・副センター長）

（林）　それでは、時間になりましたので、今日の午後の大会企画のフォーラムを開会させていただきます。

私は、今日のこのフォーラムの司会を、後でご紹介いただきます大塚先生と一緒に進めることになっております、京都大学高等教育研究開発推進センターの林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日のフォーラムのテーマは大学教育評価ということで、つい一月前も、コンソーシアム京都で同じようなテーマでシンポジウムが開かれましたし、いろいろなところで大学教育評価に関する議論は進められていて、ぱっと聞くと「またか」という感じも若干しないわけではありませんけれども、だんだんいろいろな意味で評価の動きが早まってきております。そういう状況で、今回は「評価する側の論理」ということで、むしろ主体としては、評価する側に立っておられる方々においでいただいて、フォーマルな話というよりは、実際に携わっておられてお感じになっていることを率直に聞きたいと思って、企画されたものと思います。

私があらかじめ何か長々と話をするよりも、早速、開会に入りたいと思います。

最初に、京都大学総長の尾池和夫先生からご挨拶をお願いします。